

Theme Symposium | 学校保健体育研究部会 | 【課題B】保健体育授業をいかに良質なものにするか

Considering quality health and physical education classes and their learning content: Teachers' quality and abilities for a rich sport life of students

Chair: Yukinori SAWAE, Yuichi Hara

Thu. Aug 31, 2023 10:10 AM - 12:10 PM RY203 (良心館2階RY203番教室)

子どもたちの豊かなスポーツライフを支えるために求められる良質な保健体育授業とは何かを検討してきた過去2回のシンポジウムを踏まえて、今回は、それを実現へと導く教師が身に付けるべき資質・能力について議論することにした。

具体的には、既存のスポーツや知識を伝えるだけではなく、さまざまな社会情勢に応じて対応できる力、つまり運動やスポーツ、健康な生活を「創る」力や、いろいろな人の力と協調する「つながる」力が求められるという前提のもと、ご自身の教師経験と若手育成の実務経験から中村氏（京都市立下京中学校）、教員養成課程に関わる三田部氏（筑波大学）から、教員をめざす学生の課題を踏まえ、特に運動やスポーツを「創る」力を育成するうえでの取り組みについて、学校体育現場への豊富な助言経験をもつ宮口氏（石川県立大学）から、スポーツ科学という学際的な知見や人材が体育授業とどう「つながる」ことができるかについて話題提供していただくことにした。

これらの話題をもとに、子どもたちの豊かなスポーツライフを支える教師の資質とは何かを、教師教育という観点から議論してみたい。

[学校保健体育-SB-3] Attractive physical education classes for the present-day

proposal of alternatives

*Kazuyoshi Miyaguchi¹ (1. Ishikawa Prefectural University)

＜演者略歴＞

日本体育測定評価学会副会長、日本教育医学会常任理事、いしかわっ子体力向上アクションプラン検討委員、いしかわ科学トレ専門グループ委員、小立野ジュニアアスレチッククラブ代表。最近では、子ども達の運動不足を解消するためYouTubeを活用し、豊富な指導経験に基づく独自の体育教材動画（ラダー運動、なわとび運動）を配信している。

ここ数年で教育現場は大きく変わってきた。新型コロナによる子どもたちの体力低下も問題ですが、グローバル化や人工知能・AIなどの技術革新が急速に進み、子どもたちが自ら考え行動する「生きる力」を育むことが求められるようになってきた。しかし、実際の現場では旧態依然とした授業が展開されているケースも少なくないよう思われる。子どもたちの知的好奇心をくすぐるワクワクするような体育授業が展開されているであろうか。

最近、オルタナティブ〇〇という用語を耳にするようになった。「型にはまらない」「既存のものに取ってかかる新しいもの」という意味らしいが、これからの体育授業もオルタナティブな要素をどんどん取り入れていくべきではないだろうか。先達の知恵が詰まった新学習指導要領を参考にするのは当然であるが、一步踏み出し、最新のスポーツサイエンスを取り入れた、より革新的でまさにオルタナティブな授業づくりが必要ではないだろうか。また、部活動の地域移行が進む中、身近にスペシャリストがいるなら、そのつながりをもつことも大いに有効であろう。本シンポジウムでは、地元で取り組んできた事例を挙げながら、今後の体育授業のあり方について提案したいと考えている。